



防災の日



39th
year
Anniversary

1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災の教訓を忘れないようにと、この時期多くなる台風への心構えの意味を含め防災の日が制定されました。

昨今、各地で地震、水害が発生し、多くの方が避難生活を余儀なくされています。近い将来首都圏でも大地震が発生するといわれています。いつ発生するかわからない災害に対し、各ご家庭で備えは十分できていると思いますが、被災者の声から「比べるならこっち。」「こんなグッズがあった方が良い。」そんな物を少し紹介したいと思います。

防災の基本は「自助」です。自分の命を守る備えを少しずつ準備していきましょう。

軍手 < **革製手袋 (破れにくい)**

水道が止まってしまう可能性がある被災地ではケガをすると洗浄できないため、小さなケガでも非常に危険です。ケガを未然に防ぐことが大切になります。軍手よりも破れにくい革製の手袋は、救援活動、ガレキ処理の際も釘やガラスから手を守ってくれます。一組は準備しておきましょう。

カセットコンロ

被災者の多くの声の中に、災害時非常食を食べる生活が続くと、温かいご飯が食べたくなるそうです。熱源が確保できなくなる災害時、カセットコンロがあると便利です。煮炊きに使うのではなく、お湯を沸かして温かい飲み物を飲んだり、レトルト食品を温めたりと重宝します。カセットコンロだけでなく、カセットボンベの替えも少し多めに備えておくとうれいでしょう。

非常用

懐中電灯 < **ヘッドライト**

懐中電灯を備えていらっしゃる方も多いと思いますがこれからもう一つ買い足す予定のご家庭は是非ヘッドライトのご用意をお勧めします。理由は明確で両手があくからです。避難する際、荷物を持ったり、お子様を抱えたり、ガレキをどかさ際も両手があいている方が動きやすいです。ご購入を検討される際参考にしてください。

39th
year
Anniversary

次回の
ありがとうフェア!

10月22日(土)・23日(日)

学ぶ ↓ **楽しむ**

家族と楽しむ住まいの学校 ↓ **年に1度のハロウィン! 皆で仮装してワイワイ楽しもう!**

住まいを考える「住まいトーク」

※上記内容が変更になる場合があります。お気軽にご相談ください!

編集後記

朝夕響き渡る虫の声に、秋の訪れを感じる頃となりました。39周年ありがとうフェアもいよいよ終盤。10月と11月に、ご家族そろってお楽しみいただけるイベントを企画しております。ぜひお誘い合わせの上ご来場ください。お待ちしております。

◆新築(分譲・注文)・リフォーム
株式会社三和住建 TEL042-794-3030

◆リフォーム専門
三和株式会社 TEL042-794-0320

〒194-0035
東京都町田市忠生3丁目7番地15

さんわ四季報

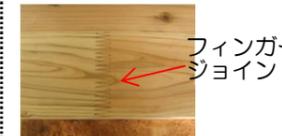
秋号 2016年
vol.59

工場見学に行ってきました!!

「新建材：CLTプレカット工場」

再構成材料原料と繊維方向

原料 繊維方向	ひき板
平行	集成材 厚板を平行に重ねた、線材
直交	CLT 厚板を直交して重ねた、面材



ひき板の接合部はフィンガージョイントで接着。この方法で接着したものは部材強度が高くなります。



CLTパネルを吊り上げ加工機に入れます



図面と加工機のモニターを見ながら機械で加工します。パネルは固いためゆっくりと加工します。

オリンピックに向けて新国立競技場が建替えられます。公募条件に「木材利用の推進を図り、製材、CLT等の集成材、合板等の木材を可能な限り利用する計画とする。」と記載がありました。建築家：隈研吾さんがデザインした「杜のスタジアム」では鉄骨と木材を使用し「和」をテーマに建築されるのが決定しています。そこで、新たな建築材料として注目を集めているCLT。CLTとはクロス・ラミネイティド・ティンバー (CLT: 以下CLT) の略で集成材の新たな工法です。集成材とは、100年ほど前にドイツで生まれた材料です。板材を繊維方向(平行)に接着剤で貼り合わせた材で、建築現場では構造材と造作材に使用されているものがあります。無垢材では求められない、太く長い柱や、幅の広い板が作れる事、強度性能も無垢材よりバラつきが少ないという利点があります。CLTパネルは板材を直交方向に重ね接着します。直交方向に重ねる事で反りや狂いを軽減することができます。厚さ12mm~50mmの板材(ひき板)を縦横につないで、重ねていくので非常に厚く、大きな面積のものが作れます。高い断熱・遮音・耐火・耐震、作業効率もよく、解体後も30回程度の組立が出来るそうです。ドイツやイタリアでは既に中大規模の建築に使用されています。今回、このCLTを加工するプレカット工場にお邪魔しました。まず、驚いたのがCLTパネルの大きさです。現場で目にする集成材は柱や梁などの比較的人力でも運ぶ事が可能な大きさの材料ですが、面で支える工法のため、とても大きなパネルになっています。この大きなパネルを機械で吊り上げ、加工する機械に入れます。設計図通りにパソコンと機械モニターを確認しながら金物の位置や接合部分を加工します。加工が終わった材料は現場に運びます。戸建への供給にはまだ時間が掛かりそうですが、この春建築基準法の改正があり木造で「60m!」のビルが出来る日が来るかもしれません。(笑)工期短縮などたくさんのメリットがあります。

今後のCLTの進化にご期待下さい。

つくばCLT実験棟

ウィーンの木造集合住宅



お施主様訪問記



今回は、新築お引渡しから1年を迎えたK様邸をご紹介します。

K様邸
(座間市)
H27年築



落ち着いたネイビーの外観。



玄関ドアも珍しいデザインで素敵です。



お部屋の中はブラウンと白で統一されています。

座間市にお住まいのK様邸に伺いました。

外観はネイビーのサイディングと、赤いポストが印象的なお宅です。玄関に入ると、かわいいお嬢様達が迎えてくれました。お嬢様達の案内で後について行くと、吹き抜けの開放感あるリビングに到着です。高窓からは日差しもたっぷり差し込み明るいリビング。

訪問した日は梅雨の晴れ間で猛暑日一歩手前の気温でしたが、リビングには心地よい風が入り暑さをほとんど感じませんでした。

住宅を建てられる前、マンションにお住まいでしたが、ご主人の同僚の方の「戸建も良いよ。」の言葉がきっかけとなり、戸建住宅を考えるようになったそうです。

お住まいだったマンションと奥様の実家にも徒歩で行ける、今の場所にタイミングよく土地が見つかり建築となったそうです。

弊社を選んでくださった経緯は、LIXILのSW工法を気に入ってくださった事、弊社専務がプラン図をササッと描いてくれた事が決め手になったご様子でした。

SW工法を気に入っていただき実際、一年過ごされてみて「寒くなく、暑くなく、光熱費も変わらずマンションに住んでいる時と同じ感覚で過ごせています。」とご主人。また、住み始めてから周りの土地にたくさん家が建ち、近隣で工事が重なった時期があった様ですが、工事の音も全く気にならな

かったとご夫妻。気密性の部分でもSW工法の良さを感じていただけ、弊社も嬉しく思います。

弊社では戸建住宅の壁の角を安全確保の面から丸く施工することを標準にさせていただいておりますが、全ての角を丸く施工されているのを「掃除の際も角に当たらず、傷がつかず大変気に入っています。もっと、アピールした方が良いでしょう。」とお話しいただきました。他社で標準施工が少ない中、標準として施工してきた部分を喜んでもらい弊社も施工業者もこれからの励みになります。

美術館をイメージした家づくりをテーマに進めていたと語るご主人。

必要最小限の物だけで過ごせる様にと収納を多めにとり、リビングには間接照明やスポットライトなど灯りの演出も。テーマに沿った家造りがされていると納得しました。

3階にあるバルコニーでは「たこ焼きパーティーや、シートを敷いて星を見るんだよ。」とお嬢様が教えてくれました。

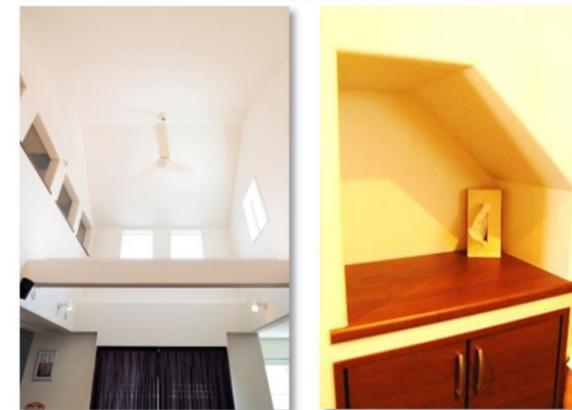
3階のバルコニーという事で外からの視線を気にすることなく、ご家族で楽しい時間を過ごされている様子でした。

ご家族の素敵な笑顔にまたお会いできるように願いながら、このご縁を大切にこれからも家造りに携わっていきたいと思います。

ご協力ありがとうございました。



お嬢様達のお部屋。中を扉で仕切り一つの大きなお部屋としてお使いでした



(左) 梁上部には、照明がついていて、灯りでお部屋の演出を楽しまれている様子。(右) 奥様お気に入りスペース。この上に、皆様のお洋服をご準備するのが「とても楽しみなんです。」と奥様。



吹き抜けの横にある小屋裏はお嬢様達のプレイルーム。秘密基地の様でした。



笑顔が眩しいK様ご家族！！